

【活動レポート】5/20 VOLAS 学習会「地域に出てみようー農家民宿を通じた取り組み」に参加して



長野県安曇野市に、日本国内だけでなく、海外からもたくさんの方が集まる宿があります。宿に泊まるひと、地元の人、さまざまな人と人がつながり、嬉しいこと、楽しいこと、幸せなことが展がっていく...そんな場になっています。

その宿「安曇野地球宿」のオーナー・増田望三郎さんにお越しいたゞき、農業を通じた地域での取り組みについて、お話を伺いました。学習会に参加した、学生の活動レポート(感想)をご紹介します。

今回の学習会で増田さんが紹介して下さった内容の一つに、「半農半X」という考え方がありました。片方では農業をやりつつ、Xにあたる部分として農業以外の何か他のことを行うという意味の言葉です。例えば増田さんは、長野県の安曇野という地で農業を営む傍ら地球宿というゲストハウスを運営し、またその地の政治活動に参加するなどといった活動を行っています。「半農半X」というスタイルをとって、安曇野市の地域活動に精力的に取り組んでいるのです。

私たち外大生にとっては、自分が生まれた地元や地域に根ざした仕事や生活という視点は盲点となってしまうのではないのでしょうか。一般的に外大生というと、各国を飛び回って国際的に活動する学生、またその志向を強く抱く学生が大半を占めるというイメージが強いように思われます。卒業後は学んだ専攻語、高い語学力を生かして海外へ勤務する学生もきっと多いことでしょう。私もそのような外大生のうちの一人です。それ故に、地元・地域志向の考え方や活動というのは私にとってとても新鮮に感じら



れました(地方で暮らせば、こうした視点は取り立てて新鮮なものでもないのかもしれませんが)。海外志向の強いこの大学だからこそ、このようなテーマを取り上げることに意義があるのではないかと思います。外大生だからといって何も海外だけで活動するのではなく、こうした地域活動等様々な活動の幅があることを、今回の学習会を通じて改めて確認できました。

「大学生活では、チャンスを見逃さないことが重要だ」と増田さんはおっしゃっていました。これから自分の進路を考えていくにあたって、今回得られたような様々な視野・視点を念頭に置き、チャンスを逃さず行動していきたいと思いました。

(言語文化学部 タイ語2年 大澤悠也)

日時: 2016年05月27日